

ジオラマ製作から市内の遺跡を学ぶ —博物館の教育普及活動としての体験講座の効果と意義—

Learning of the archaeological sites in Ishikari city from making diorama
—Effect and significance of museum lecture
as educational activities—

荒山 千恵*

Chie ARAYAMA*

要 旨

石狩市内の遺跡である石狩紅葉山49号遺跡を対象に、縄文文化の暮らしの風景をジオラマで製作する体験講座を実施してきた。地域の歴史学習で教育普及の手法として効果がある。また、講座実施後にジオラマを用いた展示を行うことで、広い普及啓発にも繋がっている。地域に根ざした博物館の教育普及活動として取り組むことに意義がある。

キーワード：ジオラマ，縄文文化，石狩紅葉山49号遺跡，地域の歴史学習

1. はじめに

平成26（2014）年度から平成29（2017）年度に、いしかり砂丘の風資料館で実施した教育普及事業の一つに、ジオラマ製作を取り入れた体験講座がある。本講座の目的は、子どもから大人までの幅広い世代を対象に、石狩市内で見つかった遺跡・遺物について知ってもらい、地域の歴史・文化への興味を深めてもらうことである。これまでに実施した本講座では、石狩市花川に位置する石狩紅葉山49号遺跡（以下、49号遺跡）をモデルに、縄文文化の暮らしの風景をテーマにしたジオラマ製作を行った。本稿では、その方法と効果をとおして、資料館の教育普及活動として取り入れることの意義について述べる。

2. 講座のねらい

（1）実施方法

縄文文化の暮らしの風景をテーマにしたジオラ

マ製作の体験講座について、これまでに4回実施した（表1，図1～4）^{（注1）}。各年度の考古学分野を対象としたテーマ展や期間限定展示等と関連する事業として行ったものが多い。4回のうち、ジオラマ製作の方法には違いがある。平成26・27・28年度に実施した講座では、参加者合同で一つの作品を仕上げた。完成したジオラマは資料館での展示をはじめ、館外（石狩市民図書館、市内小中学校、市外イベント会場等）でも紹介し、多くの方にご覧いただいた。平成29年度に実施した講座では、夏休み期間に合わせて一人で1作品ずつ完成できる小さな作品を製作した。これら4回の講座には、子どもから大人までの幅広い世代の参加がみられた。

（2）コンセプト

ジオラマ製作を取り入れた本講座に共通するコンセプトは次のとおりである。

第一に、ジオラマに再現する内容の共通するテーマを、「縄文文化の暮らし」としたことであ

*石狩市教育委員会生涯学習部文化財課（併任）／学芸員 〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30-2

表 1. 縄文文化をテーマに実施したジオラマ製作講座および主な関連事業一覧.

開催年度	縄文文化をテーマに実施したジオラマ製作講座および関連事業
平成26年度	<p>【講座名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験講座「縄文のサケ漁をジオラマで作ろう」(図1) 場所：いしかり砂丘の風資料館(参加：両日で15名) 開催日：《1日目》平成26(2014)年8月9日，《2日目》8月23日 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10周年記念テーマ展「川と人と漁—遺跡にみる縄文の河川漁」 期間：平成26(2014)年9月10日～11月30日 場所：いしかり砂丘の風資料館 ・ミニ展示「縄文の暮らしをジオラマで見よう」 期間：平成27(2015)年1月20日～2月3日 場所：石狩市民図書館
平成27年度	<p>【講座名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験講座「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」(図2) 場所：いしかり砂丘の風資料館(参加：11名) 開催日：平成27(2015)年10月10日 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展「石で作った縄文文化の道具たち—石狩紅葉山49号遺跡から出土した石器—」 期間：平成27(2015)年9月16日～2015年12月13日 場所：いしかり砂丘の風資料館 ・期間限定展示 市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」紹介 期間：平成27(2015)年7月30日～12月13日 場所：いしかり砂丘の風資料館 ・講演会「石狩紅葉山49号遺跡から縄文世界遺産へのメッセージ」 期間：平成27(2015)年12月5日 場所：石狩市民図書館 ・ミニ展示「縄文の暮らしをジオラマで見よう」 期間：平成27(2015)年12月2日～12月8日 場所：石狩市民図書館
平成28年度	<p>【講座名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験講座「縄文の川と暮らしをジオラマで作ろう」(図3) 場所：いしかり砂丘の風資料館(参加：7名) 開催日：平成28(2016)年10月29日 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展「石狩紅葉山49号遺跡の舟と櫂」 期間：平成28(2016)年9月21日～11月23日 場所：いしかり砂丘の風資料館 ・講演会「縄文の暮らしと石器—石狩紅葉山49号遺跡出土の石器使用痕分析からわかること」 期間：平成28(2016)年11月3日 場所：石狩市民図書館 ・ミニ展示「縄文の暮らしと石器」 期間：平成28(2016)年11月1日～11月3日 場所：石狩市民図書館
平成29年度	<p>【講座名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験講座「縄文の暮らしをジオラマで作ろう」(図4) 場所：いしかり砂丘の風資料館(参加：10名) 開催日：平成29(2017)年8月5日 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展「土器文様の不思議—石狩市内の遺跡から—」 期間：平成29(2017)年9月20日～11月30日 場所：いしかり砂丘の風資料館 ・体験講座「縄文土器の文様をつくろう」 期間：平成29(2017)年10月28日 場所：いしかり砂丘の風資料館

る。これまでに実施した4回の講座では、石狩市内にある遺跡のうち49号遺跡をモデルとして選定し、この遺跡から出土した縄文文化中期の遺構や遺物をもとにストーリーを組み立てることとした。ストーリーについては、単なる類推で創作するのではなく、モデルとした49号遺跡の概要を理解し、出土品（土器、石器、木製品等）を観察する時間を設け、それらの機能や用途を検討しながら、当時の暮らしの様子を考えることに重点をおいた。特に、ジオラマに当時の道具を表現するときには、当時の製作技術や使用方法を調べたり考えたりする必要があり、観察や考察を深めること

ができる。また、毎回の講座では小テーマを設定し、縄文文化の暮らしのストーリーの中に少しずつ異なる内容を取り入れながら実施した。

第二に、ストーリーに描く縄文文化の暮らしの風景に、どのような人物がどこで何をしているか（家族、男性、女性、子どもなど）をイメージすることである。

第三に、ジオラマに再現するストーリーには、季節や時間帯を設定し、暮らしと共にある自然の風景も表現することである。特に、モデルとする49号遺跡をとおして、当時の河川を利用した暮らしの様子や身近な動植物についても考えることを



図1. 平成26年度の作品
「縄文のサケ漁をジオラマで作ろう」.



図2. 平成27年度の作品
「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」.



図3. 平成28年度の作品
「縄文の川とくらしをジオラマで作ろう」.



図4. 平成29年度の作品
「縄文のくらしをジオラマで作ろう」.

ねらいとした。参考にしたのは、49号遺跡で確認された動物遺存体や低湿地部に残されていた動物足跡、土壌サンプルから得られた植物の種子や花粉についてである。なお、実際の講座では、開催場所と遺跡の位置が離れているため、講座担当者が予め遺跡周辺を散策のうえ写真撮影し、現在の紅葉山砂丘の様子や参考となる植物の特徴がわかるよう準備した。

第四に、ジオラマ製作に用いる材料は、できるだけ身近なものを工夫して使用することとした。枯枝、砂、紙粘土、絵具、ニス、端切れ、麻紐、針金、板、色画用紙、他の講座や展示等で使用した梱包材やパネルの再利用などである。

3. 内容と効果

(1) 講座の流れ

講座の流れについては、共同製作で1作品を仕上げる場合と、一人で1作品を製作する場合で若干の違いはあるが、基本的な手順は4回とも共通し、次のとおりである。

① ジオラマ製作の導入として、テーマとする縄文文化、モデルとする49号遺跡の概要について説明した(図5)。それらを踏まえて、各回の講座の小テーマに基づいて、ジオラマに表現する縄文文化の暮らしのストーリーを設定し、具体的な製作内容を決めた。

② 製作するジオラマ全体の大きさを確認し、製作時の目安となる縮尺を決めた。特に、人物の大きさを基準にしながら、他の製作物の大きさを設定するようにした。

③ ジオラマのパーツを次の3つ(i~iii)の構成に分けて製作した。特に、参加者が合同で一つのジオラマを仕上げる場合は、これらの作業を分担して進めることになるため、最終的に縮尺を含めた統一感がもたせられるよう確認しながら製作した。

i : 土台と景観(地形、動植物など)

ii : 暮らしの様子を表現するうえでストーリー

の中心となる縄文文化の人々の様子(家族など)

iii : 遺構や遺物に基づいた縄文文化の暮らしの道具や構築物(河川漁の仕掛け、竪穴住居、石組炉、土器・石器・木製品など)

④ 作業工程については、③に示した3つの構成のうち、まずは土台の製作を優先し、そこに河川や植生を表現した。次に、河川漁の仕掛けなどの構築物、人物や暮らしの道具、動物などを作り、それらをストーリーに合わせて土台に設置した。さらに、空間的なバランスをみながら植生などの細部を調整のうえ全体を仕上げた。なお、ジオラマでの造形や彩色の際には、出土品を観察した際のスケッチに加えて、49号遺跡報告書等による遺物・遺構の図版類や復元イメージ図(石狩市教育委員会, 2003; 2005; いしかり砂丘の風資料館, 2005; 石橋, 2007)を参照し、各種図鑑類なども参考にした。

(2) 効果

49号遺跡を対象にしたジオラマ製作講座を通しての効果について整理する。

第一に、合同で一つのジオラマ作品を製作した講座に参加された方から、後日、別途ジオラマを製作したという声が聞かれた。参加者が講座で学んだ知識や技術を事後の自由研究等の学習展開に繋がられている点は、地域の歴史学習として本講座に一定の効果があったと考えられる。

第二に、ジオラマによる「作る(製作)」と「見る(展示)」の効果についてである。本講座で合同製作したジオラマは、館内外での展示や紹介を通して多くの方々にご覧いただくことができた。本講座そのものは製作を目的としているが、完成したジオラマを展示することで、講座参加者以外の方にも市内の遺跡や縄文文化に興味をもつ契機となった点は、博物館での教育普及の発展的效果として捉えることができる。

第三に、遺跡に関する調査研究の課題を具体化する効果である。遺構や遺物に基づいてストーリーを設定し、ジオラマに表現するために道具や

じょうもんぶんか
体験講座 縄文文化のくらしをジオラマで作ろう

開催日：2017年8月5日（土）
 主催：いしかり砂丘の風資料館
 （担当学芸員：荒山）

1 縄文時代とは

①いつ？

②どのようなくらし？

③なぜ大昔のくらしのことがわかるの？

2 観察しよう

④遺跡からみつかった縄文時代の道具にはどのようなものがあるのかな？
 ⇒石狩市花川にある石狩紅葉山49号遺跡から出土した約4000年前のくらしの道具を見てみよう！



いま
土器



さつぎ
石器

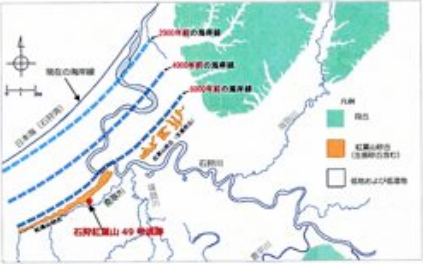


もくせいひん
木製品

p.1

いしかり砂丘の風資料館
★石狩紅葉山49号遺跡

石狩紅葉山49号遺跡は、紅葉山砂丘の内陸側にあります。発掘して調べてみると、
 湿地の中から約4000年前の川の跡が見つかり、縄文時代の人々が使っていた魚をとるし
 かけやくらしの道具がたくさん出土しました。とくに、この遺跡では木で作った道具がたくさん
 見つかりました。木の道具は多くの遺跡ではくさってしまい残りにくいため、日本の中でも
 貴重です。



p.2

3 ジオラマを作ろう


○参考にする遺跡…石狩紅葉山49号遺跡

○くらしのようす（ストーリー）を考えよう
 …今回は約4000年前の秋にタイムスリップ！
 ☆たとえば、「川でサケをとる父と子、外で土器なべの準備をしている母と子」

○作るものと大きさを決める

- ①土台と風景（川、植物、動物、石相炉、竪穴住居など）
- ②人
- ③くらしの道具（土器、石器、木製品など）

★作るときのポイント：人の大きさを目安にしよう！



p.3

★メモ、スケッチ

p.4

図5. 平成29年度に実施した体験講座「縄文のくらしをジオラマで作ろう」の資料.

構築物の作り方・使い方を検討する中で、未解明な問題点が具体化し、新たな解明の手がかりとなる。また、暮らしの風景をイメージする際には、当時の人々の暮らしと自然環境との関係性も考えなくてはならない。例えば、工藤雄一郎は植生史研究と考古学について、「人類の生活において、植物は環境、景観、資源など、様々な点で密接に関わっている。過去の人類も同様であり、遺跡出土資料から過去の人類の文化や社会を描き出す考古学においても、これらの情報は極めて重要である。」(工藤, 2018)と述べている。また、辻誠一郎は、集落生態系の復原と描画について論じる中で、「人間主体環境系という生態系の捉え方は、人間の五感の対象となる景観の議論を押し進めるのに優れた方法である。」(辻, 2018)と述べている。ジオラマ製作もまた、当時の人々の暮らしの風景を再構成していくうえで、有効な手法であると考えられる。

4. おわりに—博物館の教育普及活動としての意義

資料館の教育普及活動の一つとして、石狩市内にある49号遺跡を対象にした縄文文化の暮らしの風景をジオラマで製作する体験講座の実施について紹介した。本講座は、地域にある身近な遺跡の調査成果を活用した歴史学習である点に特色がある。これまでに実施した4回の講座は、いずれも49号遺跡をモデルに実施しており、今後はさらに市内の他の遺跡や異なる時代・文化についても興味・関心を深められるように発展させていきたいと考えている。

いしかり砂丘の風資料館では、学芸員が専門とする分野を中心に、さまざまな体験講座が行われている。これらの講座は、継続的な取組みを重ねるなかで、内容が充実し、特色ある教育普及へと展開している。志賀健司は、担当する体験講座「フライドチキン骨格標本をつくる」の手法と意義をまとめ、身近な素材が生命の歴史を学ぶ有効な教材となることを指摘する(志賀, 2018)。こ

れら各講座のねらい・手法・効果・課題を再確認しながら、地域に根ざした博物館の教育普及活動として取り組んでいくことに意義があると考えている。

謝辞：本講座の実施にあたり、開催時には資料館スタッフとして、倉雅子氏、木戸奈央子氏、中嶋灯奈氏、神田いずみ氏、資料館ボランティア「いしかり砂丘の風の会」の皆様にご協力を賜りました。末筆ながら心より感謝申し上げます。

注1 表1に記した事業については、テーマ展や期間限定展示に関連する内容を中心に、各年度の『いしかり砂丘の風資料館紀要』に報告している(荒山, 2015; 2016; 2017; 2018)。

引用文献

- 荒山千恵, 2015. 縄文時代中期における河川漁の捕獲用施設について—石狩紅葉山49号遺跡を例にして—. いしかり砂丘の風資料館紀要, 5:13-21.
- 荒山千恵, 2016. 石狩市の市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」. いしかり砂丘の風資料館紀要, 6:77-86.
- 荒山千恵, 2017. 石狩紅葉山49号遺跡の丸木舟と櫂. いしかり砂丘の風資料館紀要, 7:47-56.
- 荒山千恵, 2018. テーマ展「土器文様の不思議—石狩市内の遺跡から—」および関連講座について. いしかり砂丘の風資料館紀要, 8:43-50.
- いしかり砂丘の風資料館, 2005. サケの考古学—紅葉山49号遺跡と北の鮭漁の歴史. いしかり砂丘の風資料館第2回特別展図録.
- 石狩市教育委員会, 2003. 北海道石狩市紅葉山49号遺跡低湿地部発掘調査概要報告(CD版).
- 石狩市教育委員会, 2005. 石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書.
- 石橋孝夫, 2007. 定置式河川漁撈—石狩紅葉山49号遺跡の定置式河川漁撈—. 縄文時代の考古学5 なりわい—食料製作の技術—. 103-112.
- 工藤雄一郎, 2018. 植生史研究と考古学. 季刊考古学, 145:14-18.
- 志賀健司, 2018. 夕食のオカズに恐竜を見る—博物館におけるフライドチキン部分骨格標本製作学習の手法

と意義-。いしかり砂丘の風資料館紀要, 8 : 23-29.

辻誠一郎, 2018. 植生史から生態系史へ-集落生態系の
復原と描画-。季刊考古学, 145 : 19-23.